

# 石島会計メモ

平成25年10月号



中央区日本橋本石町 4-5-12  
友泉本石町ビル 3階  
石島公認会計士事務所  
(03)3275-1311  
発行責任者 石島洋一

## 社員旅行費用は給与課税しなくて良いか？

### ☆☆4泊5日以内なら…

福利厚生としての社員旅行では、その魅力を高めるために海外旅行を企画している会社もあろうかと思えます。こうした旅行費用については、社会通念上一般的に行われている程度のもは、給与として課税しなくてもよいことになっています。それが認められるためには基本的条件があります。

- (1) 旅行の期間が4泊5日以内（海外旅行の場合は、外国での滞在期間が4泊5日以内）
  - (2) 旅行に参加した人が、全体の人数の50%以上（支店ごとに行う場合などは、職場ごとの人数の50%以上）
- ただ、不参加の人に金銭を授与したときには、全員が給与課税となります。

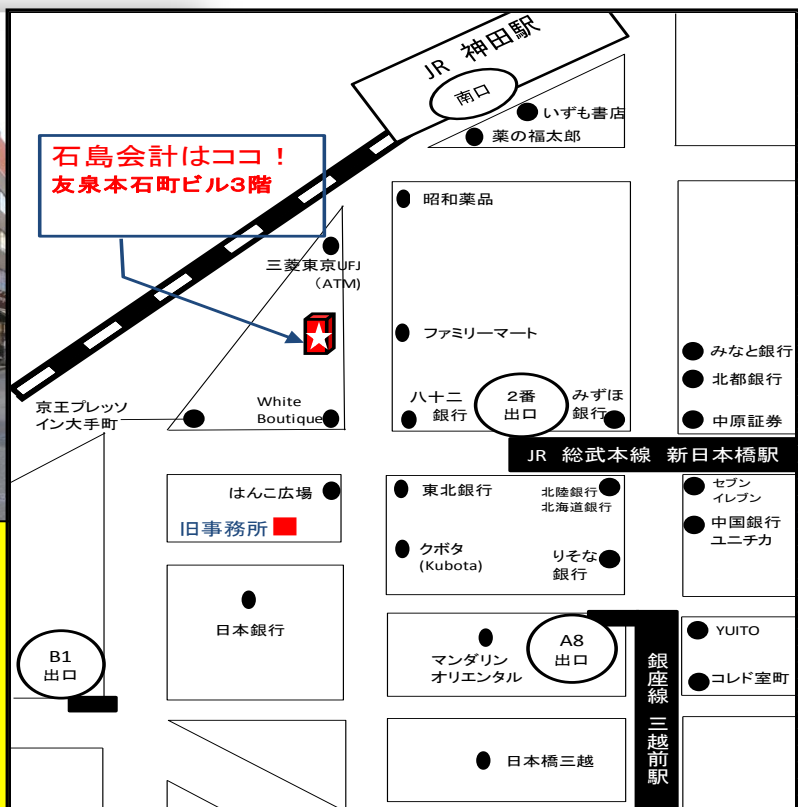
(裏面に続く)



新事務所にて10月21日（月）より執務を開始しました。



「エフワン」さん（紳士服店）の大きな看板が目印。看板の横が入り口、友泉（ゆうせん）本石町ビルの3階です。1階はそば屋「本陣房」さん。



## ☆☆課税処理すべきとされた事例

しばしば問題になるのは「社会通念上、一般的」と認められる金額とはいくらぐらいか、という点です。税法では、いくら以下なら給与課税しなくてよいという規定はありません。

今年、社員旅行について、裁判所で「給与課税すべし」という判断が下された事例がありました。これは、社員（10名）が全員参加でマカオ旅行をしたケースです。旅行期日も4泊5日以内でしたから、表面の2つの条件は満たしている訳です。

ところが、会社が負担した金額が24万円余り、この金額が高額なので給与課税すると、税務署が主張したわけです。この税務署の処分に納得できない納税者が、国税不服審判所に提訴したものの認められず、裁判になり、東京高裁でも納税者の主張は認められませんでした。この事例はマカオで最高級ホテルに泊まり、食事も最高級のものと言うことで、課税も仕方ないのかな、という感じです。



## ☆☆いくらなら良いのか

では、いくらなら給与課税しなくても良いのでしょうか？

先ほども申しあげたように、税法等ではその限度金額を明示していませんが、国税庁では、次のようなケースでは課税しなくとも良いとしています。

### ▽給与課税しなくとも良いとされるケース

旅行期間が4泊5日、全員参加のケースで、旅行費用一人あたり25万円のうち会社負担10万円

このケースからは、10万円程度の会社負担なら給与課税しなくとも良いと考えられますが、これ以上がダメとも記入されていません。また、個人の負担がなく全額会社負担であっても、10万円程度であれば認められているようです。ただ、役員のみで行ったような慰安旅行は役員賞与となります。

いずれにせよ、多額な社員旅行の取り扱い、税務上の注意が必要です。ご心配な場合は石島会計までご相談下さい。

なお、次ページでは、佐藤篤司の海外旅行記を記載しますが、この旅行は完全に個人的なものであり、当事務所としての給与課税の問題は全く無いことを申し添えておきます（笑）。

（文章 石島洋一）

## トラベラーSat o の諸国漫遊記

さてお待ちかねの新コーナー登場！！トラベラーこと佐藤が皆様にご紹介するトラベルレポート・・・連載になるか（嬉）初回打ち切り（寂）になるかは皆様の反響次第、そしてご紹介する旅レポが読者の旅の参考になればそれはもうマイプレジャーです（#^.^#）

創刊号では、8月来訪のベトナムトリップをご紹介します。旅のコンセプトは“憧れのホテル”です。そのホテルとは、ベトナム中部の街ホイアンに佇む「ザ・ナムハイ」という超有名ホテル！35haの広大な敷地にたった100室という贅沢なロケーション。今年、世界のスパホテルトップ4とアジアリゾートトップ12を獲得した、高いホスピタリティーのサービスが受けられます。

成田を10時に発ち、ハノイのノイバイ空港でトランジット（ここで現地通貨ドンに両替。7万円が「えっ!!1500万ドン?!超インフレ!?!」（写真右/50万ドン札他）、目的地タナン空港16時着！



ここからホテルのリムジンで30分、ついに憧れのホテルにチェックイン。ホテル内は基本カートで移動し、部屋で専任のバトラー（執事）を紹介されます。

実は今回滞在したプールヴィラは、庭&プール&バトラー付きのコテージタイプ（写真左）、バトラーは敷地内の別棟に居住しています。



滞在中このバトラー（LAさん、写真右）がレストランの予約、クリーニング、荷物整理、外出時の車の手配などをしてくれます。さらに息子と遊んでくれたり、体調を崩した妻に生姜ドリンクやアイスノンを持ってきてくれたりと至れり尽くせり。LAさん本当にありがとう！



息子とLA（ラー）さん

そして、このホテル内での食事やスパはめっちゃ高いのですが、無料サービスがたくさん付いています。2泊すると1泊無料のサービス（これで3泊しました）、 HALFオーダーの全朝食（フォーとカオラウは激うま）、アクティビティー無料、ホイアンやダナンへの専用車送迎、アルコールを含む全品無料のミニバー、プールサイドでのウエルカムランチ、毎日お部屋に運ばれるアフタヌーンティとイブニングカクテル&カナッペ（これで食事を済ませてしまいました）など、旅費は高いが滞在中お金がかからないんです。

毎日部屋のプールで泳ぎ、ベトナムらしいホテルのプライベートビーチ（写真右）でマリンスポーツやビーチコーミング。息子とは卓球・バドミントン（息子はバドミントン部）、テニス、バスケットなどスポーツに興じる至極のホテルライフ！！





さらにホテルの外にも楽しみは一杯ありますよ～。2日目の午前中はガイドと**世界遺産のミーソン遺跡**（写真左）へ。

ここは6世紀から13世紀にかけ、現在のベトナム中南部で栄えた**チャンバ王国の遺跡**です。当時ベトナムはハノイを中心とした北部だけの国。13世紀に何度となく戦争を繰り返し、このチャンバ王国を属国としました。チャンバ王国の信仰は、ヒンドゥー教シヴァ派ですから、ここミーソン寺院もそれらしい建造物が並びます。

興味深いのは、1000年以上前の建築物が何故このような良い状態を保っているのか？実は2つの理由があります。ひとつは高い建築水準！**接着剤を使わず、レンガを摺り合わせて積み上げていく独特の工法**でベトナム戦争の戦火でもその一部しか崩れませんでした。もう一つは、カンボジアのアンコールワットと同じようにジャングルに覆われ、人に荒らされることなく**100年前まで発見されなかった**ことです。

歴史の息吹を感じながら、世界遺産を堪能。チャム族のエキゾチックな**民族舞踊**まで見られて、とても目の保養になりました。

帰りに**生春巻きの製造体験**をし、**ホイアンの街**（写真右）で降車。実はこのホイアン、街そのものが世界遺産なのです。ベトナムには、**7つの世界遺産**がありますが、フエの建造物と合せて**3つが滞在したナムハイの周り**にあるんです。

古い町並みを探索しながら歩いていると**シルク工場**発見！見学後、直営の売店で値段を見てビックリ！100%シルクのネクタイが1本350円位ではありませんか！？スーツ族のトラベラーも、すかさず5本まとめ買いです。



ベトナム中部は物価がとても安いです。住民は月5,000円程度で暮らせます。訪れた**ダナンのスーパー**では、買い物かご2杯のお土産を買っても2,000円くらいですから驚きです。

素敵なホテルライフ、世界遺産探訪、買い物ツアー、スポーツと様々なニーズを満足させてくれるベトナムの旅は如何でしょうか？それでは皆様、Bon Voyage!**マタネ!** (° - ^\*) / 旅の予算（目安）：ザ・ナムハイ（3泊）&航空機…11～14万円、滞在費&観光&土産1～3万円

ノベルティの応募は終了致しました。  
多数ご応募いただき、どうもありがとうございました。